



沖縄式

地域円卓会議について





まずは...

これまで(2011年2月から)

21回地域円卓会議を開催

(2013年度9件 2014年度3件)

「アイデアをだす前提の課題の共有
化 課題の本質を共有する場」

→課題共有型

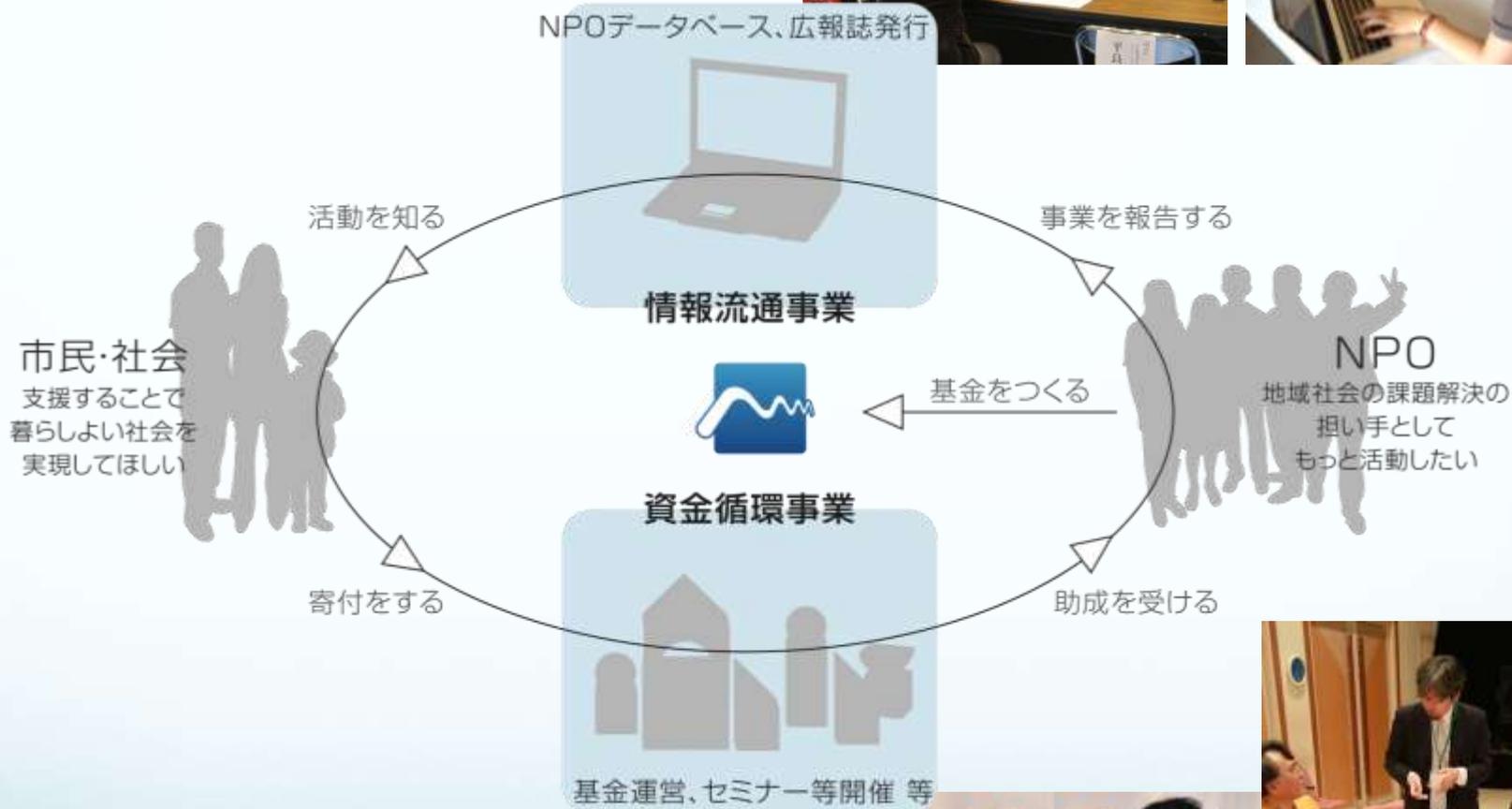


これまでに開催した円卓会議

- 2011.2.19 地域の担い手の連携 @那覇
- 2012.1.7 協働・情報・共感 @那覇 (写真)
- 2012.6.12 災害停電時の介護の電源 @那覇YEG
- 2012.8.9 程順則のまちづくり @名護
- 2013.1.13 理科教育の外部人材活用 @宮古島
- 2013.2.1 沖縄ミーバイ @水産会館
- 2013.2.16 地域人材の育成 @那覇
- 2013.3.1 地域イベント情報の流通 @那覇
- 2013.3.8 地域企業と地域活性化 @県庁講堂
- 2013.7.17 地域企業とトランジットモール@那覇YEG
- 2013.8.14 地域企業によるキャリア教育支援@那覇YEG (2回)
- 2013.9.24 国頭村から発信する「木育」@国頭村 (3回)
- 2013.10.9 海浜と地域を活かした観光 @うるま市



私たちは、市民コミュニティ財団
公益財団法人みらいファンド沖縄です。



- 2010年設立
- 沖縄NPOデータベース 330団体登録
- 「寄付と助成のプログラム」での支援団体のべ23団体
- 寄付受入累積金額 23,963,820円 (534 件)
(2014/11/1現在,設立時拠出金含む)





社会的弱者支援
NPO法人プロミスキーパーズ
101万円



若者・人材育成
世界若者うちなんちゅ基金
40万円

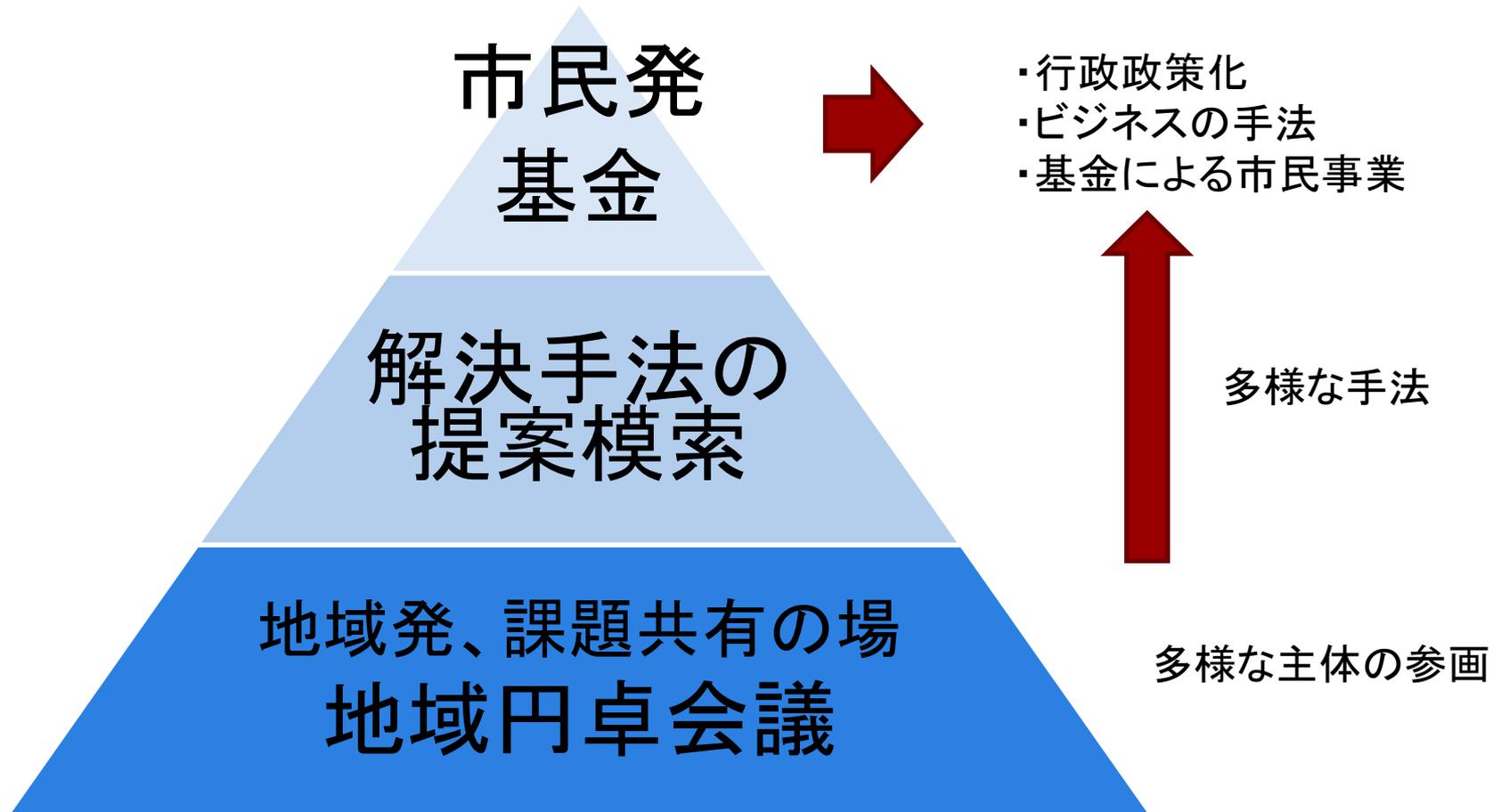


離島問題
沖縄離島バトミント基金
93万円



子ども医療
NPO法人子ども医療支援わらびの会
16万円

地域の手で、地域の「こと」の解決に取り組む





つぎは...

「沖縄式」

地域円卓会議の特徴(2014)

- ・テーマは困りごとで具体的に(参加できる)
- ・課題解決を目指し、解題を共有する2時間の位置づけ
- ・円卓会議プログラムを定型フォーム(パッケージ・30万円/回)
- ・会場全体を巻き込んでいく参加型(多様な主体の参加)
- ・司会とファシリテーショングラフィック(記録、積み上げ)

「沖縄式」二重円卓会議の構成

二重円卓会議の出席者の「役割」の名称の解説

論点提供者

テーマについて、プレゼンを行う人

情報提供者

論点を補足・拡張する講演者

センターメンバー

会議メインの発言者

サブメンバー

センターメンバーが連れて来た仲間

会場参加者

告知で知って来た一般参加者

司会者

会議全体の進行・インタビュアー役

記録者

ファシリ + ファシグラ

事例紹介2: なは円卓会議 with 那覇YEG



2012.6.12 @那覇商工会議所ホール
テーマ: 災害等の停電時の在宅介護家庭における
課題解決のため、どんな協働が可能か?
主催: 那覇商工会議所青年部

着席者を決めるときに意識していること

論点提供者は「困っている人」



台風が多い沖縄。停電が起これば、介護家庭では、人工呼吸器や家電などの介護に必要な電気製品が使えなくて、命に関わる。

なは円卓会議 with 那覇YEGの場合

難病支援の認定NPO法人「アンビシャス」
副理事長 照喜名 通 さん

新しい事実を引き出し、積み上げる

数値的情報

某大型リゾートホテルでは、1月期にミーバイ料理を700食提供した。

重度の障害者は、那覇市内だけで3,000人いる。

観光客が、沖縄旅行を決めるのは、出発の2～3カ月前が多い。

台風の際は、病院に避難するよう指導されるが、病院では廊下にまで患者と家族があふれて、対処しきれていない。

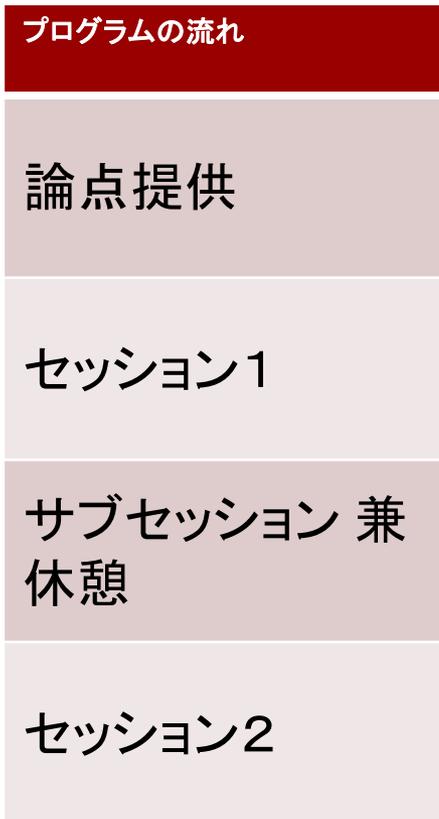
知られざる事実

某沖縄ミュージシャンの沖縄でのライブ。7割が内地からの観客だったことがある。

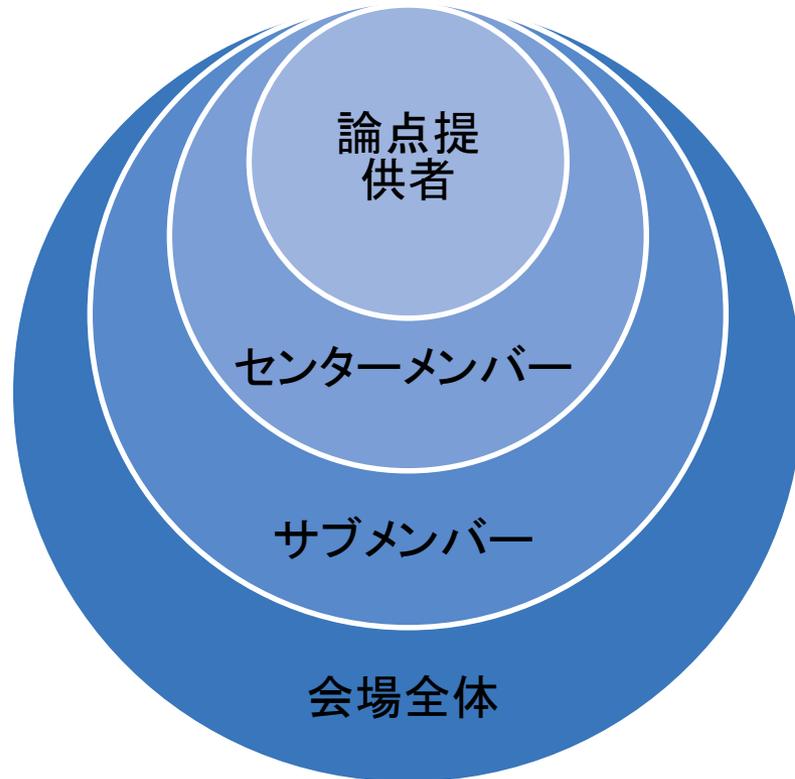
名護市で約300年続いた「御字拝」の儀式が、先代の市長のときに廃止された。

「沖縄式」二重円卓会議の構造

着席出席者(=センターメンバー)に、仲間(サブメンバー)をつれてきてもらい、サブセッションの時間中は、仲間と話し合ってもらおう。



会場の中での「参加」の広がり



事例紹介：行政情報円卓会議

新しくまちに来た住民にどうやって行政情報を届けるのか？



今回タブレット端末のレンタル事業を考えている。台風時の体制の告知等大家さんの負担を下げたり、孤独死を防ぐ緊急通報機能等を考えているが、地域に有益な情報発信について議論して欲しい。

豊見城の人口は、1965年から約6倍に増える現在5万7千人。自治会の加入率は37%

通勤通学者として市街に出る人口が多く(ベッドタウンに多い傾向)67%が日中は市外で過ごす。

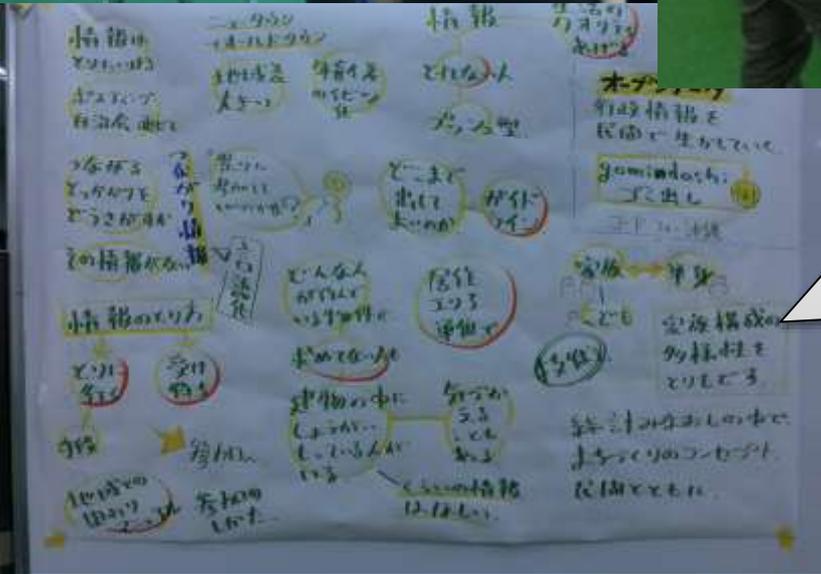
ニューカマーと旧来からの住民のコミュニケーションは長い間の課題。豊見城まつりの目的の一つ

2014.9.18 @豊見城市役所 6階ホール

主催：株式会社レキオス 参加者：

自治会加入にいたらない住民に対しても行政情報や地域活動の情報をどう届けていくかが将来の参画においても重要である。株式会社レキオス（共同事業体）としてはマンション等集合住宅に対する情報サービスインフラを活用し、このような情報提供事業も並行し行うことで、民間事業者の中から課題解決策を考えたい。

事例紹介: 行政情報円卓会議



流通すべき情報の種類は2通り

1. 日常流通した方がいい情報のキーワード
防犯・防災・危険箇所情報/ゴミの日
学校の休み(台風時等含む)/新しいお店情報
2. プッシュして欲しい情報のキーワード
交通事故/近隣の土地の情報
統計情報/小さなイベント情報

事例紹介：沖縄まちと子ども基金 第1期助成報告会 & 地域円卓会議

2012.7.31～2013.3.26

沖縄県域市民活動支援基金設置運営委員会3回実施(新しい公共支援事業)

2012.12.8

沖縄まちと子ども基金設立フォーラム(円卓会議形式で実施)
テーマ: 沖縄の子どもの貧困・孤立の解決の為に私達ができること
主催: 公益財団法人みらいファンド沖縄

2012.12～

資金造成 沖縄ファミリーマートレジ横募金箱
寄付付商品(豆腐、本) など

2013.2.25～3.14

第1回助成団体募集 沖縄の子どもの貧困・孤立の解決をめざす
NPOと研究者が協働で取り組む事業や調査を
応援する助成プログラムです

2013.4.9

第1回採択団体決定 → 事業実施へ
沖縄の教育・家族・地域を結ぶ「daimon(ダイモン)」 糸数温子
特定非営利活動法人いっぽいっぽの会 繁澤多美



事例紹介：沖縄まちと子ども基金 第1期助成報告会 & 地域円卓会議 女性の社会的孤立を防ぐためのスポーツイベントdaimonCUP。 参加者が地域社会とよりつながるための一手とは？



お母さんのための
フットサル大会
Daimon CUP (3回
開催)お祭りを通じて
①女性のコミュニティ
の維持②NPO、企
業、参加者の接点づ
くり 34チーム 400
名が参加。企業協賛
450万円 41社。
貧困・孤立に抗する
コミュニティづくり

2014.9.19 @沖縄国際大学13号館3階302教室
共催：公益財団法人みらいファンド沖縄 非営利団体daimon
沖縄国際大学岩田ゼミ

女性が主役のフットサル大会「daimonCUP」の開催を通じて、「沖縄における貧困・孤立をどう防ぐか」というテーマに取り組んでいます。沖縄県内には10年以上もチームを継続しているママさんたちがいます。練習には、子どもたちが来るし、試合になれば必ず子どもをみってくれる誰かがいる。孤立を遠ざけるコミュニティづくりとは、参加者と地域社会の関係性をつくり、継続させる一手とは何でしょうか。

沖縄県内の状況
母子家庭：3万世帯
(全国平均の2倍以上)
経済的困窮、仕事、子育て、借金

女性が社会から孤立するのは産後から

事例紹介：沖縄まちと子ども基金 第1期助成報告会 & 地域円卓会議



サブセッション
「daimonCUP内の新サービス」

その場でフットサル教室
来場者同士の接点づくり/daimonコイン
子どもが子どもみる
運営者、協賛、チーム、広報まぜる/地域別対抗/
NPOと企業とのマッチング会議の最初から

会議の企画・進行の上で、重視していること

新しい事実を引き出し、積み上げる

司会で気を付ける2点(1周目)

- ・事実(数字)を確認する ⇔ 思いは聞かない、逃げない
- ・事実在即して場がどのように反応するか、参加者の相互了解事項のラインをみている

サブセッションの問い(2周目)

- ・もっと知りたいポイント(知りたい 深めたい 深堀したい)
- ・自分のアイデアをだす

タイトルの大きさ

- ・粒度をより具体的に
(タブーキーワードは「活性化」「居場所づくり」)

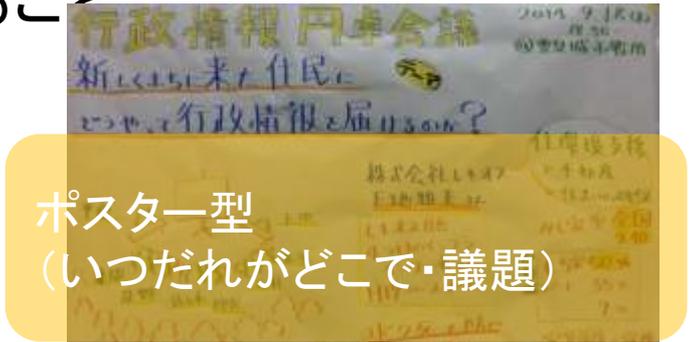


会議の企画・進行の上で、重視していること

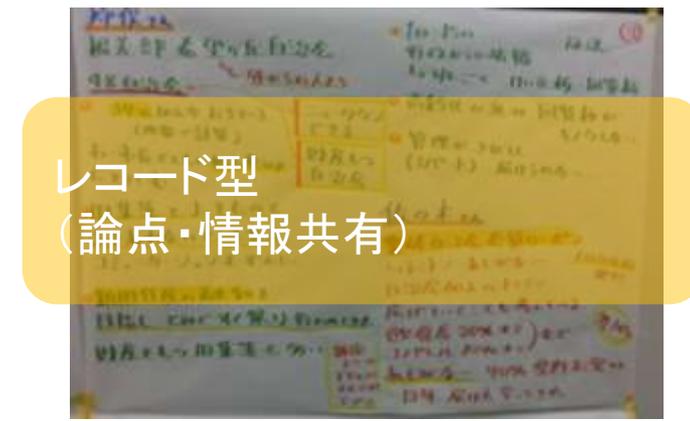
ファシリテーショングラフィックで情報共有

ファシリテーターは「魅せる記録者」

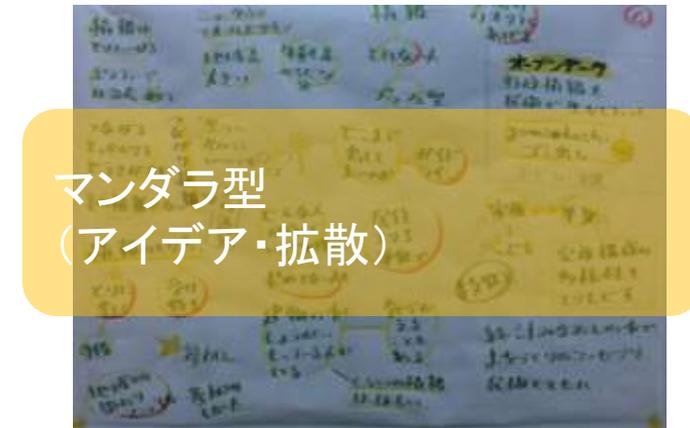
- 「記録者」の役割を担い、司会の進行補助として要所要所で振り返りを行い、議論のポイントを拾う。
- ファシグラは、次に活かせる記録であることはもちろんのことだが、みんなの「お土産」として人気が高い。



ポスター型
(いつだれがどこで・議題)



レコード型
(論点・情報共有)



マンダラ型
(アイデア・拡散)



地域円卓会議を通じて見えたこと

- 誰かに準備された会議に参加するのではなく
 - 地域のことを地域の人で議論する能力
 - 円卓の中にスーパスターはいない
 - 困りごとだから参加でき、当事者感があがる
- 今までの枠（立場、分野）を超える（着席者や参加者）
 - 多様な地域資源を巻き込む
 - 企業にとってもビジネスチャンス！
- どんな課題でも
- ゆるやかな課題共有と
 - 次のアクションへの懇親会



地域円卓会議を通じて次やること

- 課題共有から社会の仕組みまでの道筋
 - 行政政策化
 - ビジネスの手法
 - 基金による市民事業
- フォーム化してコピーしやすくなったはずだが
 - 俗人性（司会平良、ファシグラ宮道）がきわだっているの声→プロとしての努力
- 多様な立場からの課題提議 市民発、行政発 以外に
議員発の円卓会議の開催（予定）



mfoブックレット
「沖縄式」地域円卓会議
開催マニュアル
好評発売中！！

インターネットからも
申込み、購入できます！



公益財団法人
みらいファンド沖縄

<http://miraifund.org>